

	授業における課題 (児童の実態・教師の指導上の課題)	具体的な授業改善策
3年	<ul style="list-style-type: none"> 外国語活動の授業への関心が高く、特に物語や歌、身体を動かすような活動が大好きである。1、2年生の時にも外国語活動の授業はあったが年間10時間だったものが、3年生になって年間35時間に時数が増えたため、学習内容が充実している。多くの児童が意欲的に授業に参加しているため、どの学級も活気に溢れている。外国語活動の学習規律については、少しずつ理解してきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○視覚教材として用いるものについては、アルファベット表記されているものは極力避け、写真や絵、実物や映像などの文字に頼らないものを用いる。 ○歌やチャンツ、動画などを多く取り入れ、英語の音に十分に慣れ親しませる。また、日本語を多く用いることがなくても「なんとなく内容が理解できる」というような教材を使って、文脈から内容を読み取る力を育てていく。 ○基本的な英語表現については、文字指導や文法的な指導は用いずに、音声を繰り返し耳にさせることで学習させる。
5年	<ul style="list-style-type: none"> 学年として、明るく元気な児童が多い。人前で英語を話すことを恥ずかしがったり、間違えることを恐れたりするような児童が少ないので、発表ややりとりなどの活動が活発である。どの学級も、活気があり楽しい雰囲気がある。昨年度までの外国語活動との違いや教科としての位置付けを伝えるためのオリエンテーションを学期始めに行ったため、多くの児童が遊びではなく学習として真剣かつ意欲的に授業に参加している。教師やALTとの関係も良好である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師が児童に聞かせる英語表現は、その時間に達成すべき目標として設定している英語表現に絞り、児童がどの英語表現を重点的に学習すればよいのかを明確にする。 ○「書く」と「読む」の活動は必要最小限にとどめ、ワークシートなどで学習する際にもピクチャーカードの縮小版を切って貼るなど、「聞く」と「話す」の活動を中心に学習を進めていく。 ○毎時間小さな目標を設定し、児童に単元の中でその小さな目標を順番に達成させていくことで、児童に「できた!」「できるようになってきた!」というような達成感を味わわせる。 ○友達同士で称賛し合う機会を多くつくり、英語を話すことへの恐怖心を軽減させるとともに、自信も付けさせられるようにする。 ○アルファベットの形や大きさに意識させ、大文字と小文字を正確に認識できるようにさせる。 ○ICT教材を有効に活用し、児童の学びを深められるような活動を取り入れていく。
6年	<ul style="list-style-type: none"> たいへん素直で明るい学年である。最高学年ということで、昨年に比べると全体的に落ち着いた雰囲気であるが、多くの児童が意欲的に授業に臨んでいる。既習表現を用いて自分の思いや考えを発信する活動や他教科と関連している内容を英語で学習する活動を通して、児童一人一人が今まで蓄えてきた英語力を発揮する機会を多くもてるようにしている。学習内容が徐々に難しくなっていくため、個別の声がけや指導、ワークシートの細かい確認や添削、児童の実態に合った授業展開や教材の工夫などが引き続き必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習内容の難易度に合わせて、日本語と英語とを効果的に使い分ける。 ○視覚的、難易度的に英語表記で示さなくてもよいものは日本語表記にし、児童の負荷を軽減する。 ○授業中の机間巡視や授業後に児童が提出する振り返りシートやワークシートなどで児童一人一人の学習状況を確認し、必要に応じた個別指導や個別の声がけをしていく。 ○授業中に多く机間指導を行うことで、児童が抱く疑問点や質問についてはなるべくリアルタイムで答えられるようにする。 ○音声教材や視覚教材などを多く用いて、英語の音に十分に慣れ親しませる。また、コミュニケーションの基礎となる英語表現を多く口にさせることで、自然なやりとりができるようにする。 ○ICT教材を有効に活用し、児童の学びを深められるような活動を取り入れていく。

令和4年度 文京区立窪町小学校 授業改善推進プラン 第4学年 外国語活動

	授業における課題 (児童の実態・教師の指導上の課題)	具体的な授業改善策
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・外国の文化や音楽、歌など、親しみを持って学習に取り組む姿がある。一方で、英語表現を聞いて、意味が分からない、発音の仕方が分からないときは、自信がなく声が小さくなる姿がある。 ・繰り返しの発音練習で言語表現に慣れ親しんでいるが、新しい英語表現が慣れるまで時間がかかる児童がおり、友達と話す活動に繋げることができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ALTと連携をして、英語の音声にたくさんふれさせる。 ○音楽が好きな児童が多いので、音楽に合わせてたり、ジェスチャーをしたりしながら英語表現の練習をし、定着させていく。 ○長いフレーズの場合は、短く切ってスモールステップで学習する。 ○話の概要を理解することや、間違っても大丈夫だと思える雰囲気をつくる。英語を使うことを楽しむ姿に肯定的な評価をかえしていく。